

障害者支援施設 障害者福祉センター友愛寮

1 基本方針

思いやりと友愛の心を持ち、豊かで心のこもった利用者本位の質の高い福祉サービスを提供し、安全かつ安心して楽しく有意義に生活できるよう支援する。

地域との繋がりや共生を重視し介護・支援を必要とされる地域住民のために役立つ施設を目指す。

また、地域住民のニーズに応えられるよう、職員一人ひとりが専門職としての資質向上に努め、施設入所・通所・短期入所など各サービスの充実を図る。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

(1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和3年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡					
					地域移行		家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)				
				GH	アパート等									
生活介護	50	54	4	4	0	0	0	0	3	1	12,769	94.9%	54	
施設入所支援	50	46	4	3	0	0	0	0	2	1	16,593	90.9%	47	
2年度	生活介護	50	58	3	7	0	0	0	1	2	4	12,972	96.5%	54
	施設入所支援	50	49	3	6	0	0	0	1	1	4	16,794	92.0%	46

(2) 障害支援区分

①生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	4	2	9	13	28
女性	0	0	0	2	6	8	10	26
計	0	0	0	6	8	17	23	54

②施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	3	2	9	10	24
女性	0	0	0	2	5	8	8	23
計	0	0	0	5	7	17	18	47

3 事業の実施状況

(1) 安定的な施設運営及び施設の環境整備状況について

ア 30名を超える待機者リストに登録があっても入所に至らない状況があり、また利用者の長期入院等により稼働率は低下した。

利用者の高齢化・重度化も顕著であるため、この傾向は続くものとして懸念している。

稼働率実績（目標）

生活介護 94.9%（99.0%）、施設入所支援 90.9%（95.0%）、

短期入所 23.0%（50.0%）

イ 緊急災害時に備え、非常用電源装置を導入するなど環境整備に努めた。

ウ また、職員にマスクとゴーグルの着用を指示するとともに感染症対策物品の準備や点検を行い、新型コロナウイルス等の感染防止を徹底した。

エ 建替計画に係る検討については福祉センター内の合同厨房の取扱が固まっていないため進展ができていないが、友愛寮、厚和寮の現状の問題点及び必要とする設備等について整理し今後の建替え計画の検討に生かす。

(2) 利用者の満足度の高いサービス提供について

ア 各部署が協働し、日々の利用者、家族との関わりの中から必要なニーズ把握に努め、6か月に1回ケアカンファレンスにて利用者状況・課題等について話し合いや情報共有並びに共通理解を深めている。

月評にて個別支援計画をもとにモニタリング等の状況をまとめ評価することで個別支援計画の充実を図ることができた。また、個別支援計画見直し時期に個々のリスクカードの見直しも行っておりリスク管理にも繋げている。

イ 知識や技術向上を目的とした研修については、感染症予防のため主にオンラインによる研修を受講した。

また、外部研修の受講内容を職員に周知共有するため、施設内の復命研修を年6回実施し、介護技術の知識向上に努めた。

ウ 保護者・利用者満足度アンケートを実施し、集計、検証を行い要望や意見に対して改善に取り組み、サービス向上に努めた。

職員の利用者サービスに係る自己評価についても実施し、集計結果の内容を会議で意見交換を行った。自己及び利用者サービスの振り返りを行い、業務改善やサービス向上に繋げることができた。

外部機関の第三者評価を受審し、評価及びアドバイスを受け、職員に内容を報告しサービス向上につなげた。

エ 施設入所者全員のための会、意見箱の活用により苦情や意見を汲み取り、苦情解決委員会で検討し、第三者委員の助言もいただき施設整備や支援等の改善に努めた。

利用者、家族が安心して利用していただけるように施設全体で取り組むことができた。

また、虐待防止チェックシート実施や業務振り返りシートを活用し意識啓発に努めた。

オ 重度化、高齢化、疾病により咀嚼、嚥下機能が低下した利用者に対しては、刻み食やなめらか食等で工夫をこらし、利用者個々に応じた食事形態の提供や個々の機能に応じた食器類や自助具を検討しながら対応している。

嗜好調査及び2か月に1回、利用者参加の「ごはんの会」を開催し、食事についての意見や要望を献立に反映させるとともに「鍋の日」や目の前で焼く「ステーキの日」の実施、御当地や各国のし日常とは違う食事を楽しんでいただいた。毎月の行事食も利用者ニーズに合わせ実施し、様々な食の提供を行い利用者からは好評価をいただいた。

カ 個々のアセスメントを随時実施し、利用者の心身機能に合わせた個別、生活リハビリの提供に努め、機能維持を図れるよう各部署と情報共有し介護方法の検討を行い実施した。

また、福祉用具を有効活用できるよう研修会を都度行い、機器の重要性及び知識を理解しながら習得した。

(3) 医療的ケアの充実について

ア 日々のケアの中で他部署との連携を図り情報伝達を詳細に行い、異変への早期発見、早期対応に繋げている。

また、医療的ケアの手順等見直しを行い、日常問題なく業務ができるよう検討実施した。

今後も各部署との連携をさらに密にして医療的ケアの必要な方への対応に努めていく。

イ 有資格者による安心、安全な医療的ケアを実施するため、年2回「認定特定行為従事者フォローアップ研修」を実施し、手技の確認、評価を実施することで医療的ケアに必要な技術の維持習得に努めることができた。

有資格者が自信を持ち医療的ケアに従事できるよう、今後も支援していくとともに協働体制の確保と整備に努めていく。

(4) 地域生活の継続と推進について

ア 通所及び短期入所利用者及び家族が安心して生活できるよう、相談支援事業所や地域包括支援センター等関係機関との連携を図り、該当利用者が気兼ねなく当寮のサービスを利用できるよう努めた。

イ 10月に実施された湖山西地区福祉センター内施設交流会に当施設も参加し、それぞれの施設紹介や見学、また災害時の福祉避難所等についての意見交換を行い、相互協力ができるよう交流を深めた。

(5) 日中活動の支援について

日中活動として、書道やダンスの講師を招いて、多くの利用者に喜んで参加していただいている。また、花見や節分、納涼祭やクリスマスなど季節の行事を大切にして利用者の生活の中の喜びにつながるように努めた。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取社会福祉専門学校	6-11月	6人	30人
介護等体験	12月	2人	10人
計		8人	40人

(2) ボランティアの受入実績

実績なし

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設4名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	8	336	12	458
日中一時支援事業	0	0	0	0